

01.gyre

流れながれて 月の白色は 夜に目を覚ます果てない疑問
gyre gyre まわる 何度も繰り返し

丘は幾千の窓を開いてる 声をひそめて待っていたんだ
だんだん見えてくる そういう気もしてくる

今日はラインの話聞いたよ 思い出すけれどまるで白色
そうかこれがあのグルーヴ ほら聞こえてくる 歌

流れながれて 月の白色は 朝に目を開ける無限の太陽
gyre gyre まわる 今度は言葉が...

03.hikou

未来はなびく風にちぎれる絵の世界だ
雲を切り裂く長い腕は誰?
草の葉へ落ちた雫はもう小宇宙
指先ではじけば生れるケイオス

未来はなびく風にちぎれる絵の世界だ
雲を切り裂く長い腕は誰?
細い無限の足がうごめく闇の中
静穏を押しつけて舞い上がる羽音
いつも夢見がちな小さな生き物に
揺らぐ上層の空気は今宵も薄い

メイヨ ノ ヒコウ イエナイママ...
天を指して天を 高く舞い上げん

未来はなびく風にちぎれる絵の世界だ
雲を切り裂く長い腕は誰?
草の葉へ落ちた雫はもう小宇宙
指先ではじけば生れるケイオス

メイヨ ノ ヒコウ...

割れた地面を右手で転がすサイオン
我先行かんとうごめく大地
足の下...

06.Hi-kai

異解語りて平懐 徘徊経て詠懐千年
名を吐け忘我海底 再考三年酩酊並走

種田山頭火
生涯八万四千句余を詠んだ自由律俳句の放浪俳人。
山口県の大地主の家に生まれる。11歳の時、母親の自殺を目撃。
大学に進むが中退。実家の酒屋を手伝う。結婚し子ももうける。
実家の酒屋が父親の放蕩と山頭火の酒癖のため破産。
妻の実家に行き古本屋を始めるがうまくいかず離婚。
弟と父親は自殺。本人も自殺未遂を図るがお寺の住職に助けられ寺男になる。
放浪の旅に出て俳句を詠む。
1940年10月11日没。
このすさまじい人生を歩んだ山頭火の言葉はなぜか人の心を洗う。

分け入つても分け入つても青い山
このみちをたどるほかない草のふかくも
ならんで竹の子竹になりつつ

静夜思 李白

床前 月光を見る
疑ふらくは 是れ地上の霜かと
頭をあげて 山月を望み
頭をたれて 故郷を思ふ

02.Lalala

広くなる広くなってゆく太陽 続いている続いているこの道 速い

今から約40億年前、太古の海に抱かれて、私たちの祖先は誕生した。
小さな小さな泡のような生き物は、複製し、分裂し、交わり、そして繁栄した。
彼らの体には既にRNAやDNAが存在し、私たちの元となる物質が作られ、コピーされた。
それは何十億年も途切れなく受け継がれ、強いものが生き残り、続いた。
そして地球はかの時代へと到達する。

カンブリア紀の大爆発。

およそ5億年前の地球で起きた奇跡。生命は、この時代に一気に種類を増大させ、著しく多様化した。その勢いはすさまじく、たった1000万年ほどの間に、今みられる動物の「門」がほぼ全て出そろったと言う。
生物の大実験は自由奔放やりたい放題。実に奇妙で滑稽で美しい生き物が産まれては死んでいった。
いま地球上に暮らしている私たちはその膨大なサンプルの中から勝ち進んだ奇跡の産物だ。

これが地球に起こった出来事。
私は次に太陽系に目を向ける。

近所の惑星にも地球と似たような歴史を辿っている星はないだろうか。
例えばタイタンの湖の泥の中とか、エウロパの氷の下とか。
地球から何億kmも彼方にあるそれらの衛星で、太陽系二度目のカンブリア紀が起こっているかもしれない。

05.処処啼鳥 夜来風雨

天地の歌 (あめつちのうた)

あめ つち ほし そら
やま かは みね たに
くも きり むろ こけ
ひと いぬ うへ すゑ
ゆわ さる
おふせよ えのえをなれめて

春晓 孟浩然

春眠暁を覚えず
処処啼鳥を聞く
夜来風雨の声
花落ちること知る多少

07.Samsara

外へ 彼は来た 夢を抜けて やがて外へ 闇を越えて
涅槃寂靜 日は昇る 今日越える 有為の山

サンサーラ...

外へ 彼は来た 夢を抜けて やがて外へ 闇を越えて
外へ 彼は来た 空の下へ やがて外へ 闇を抜けて
空へ 彼は行く 次の夢へ 空へ 空へ... 空へ...

サンサーラ...

08.家路

朝のリズム 雨の線路 これが旅路 きみが宇宙
水をうたえ 花がうまれ これが家路 そらのすべて